

考える頭があれば、世の中は果てしなく面白い

今日の表題「**考える頭があれば、世の中は果てしなく面白い!**」は、昨日本校で開催された筑紫地区中学校美術教育研究会における講話で聞かれた言葉です。この会では、福岡市の中学校美術教諭を招き、授業実践について講話をしていただきました。講話のテーマは、「りんごかもしれない」でした。これはある絵本の題名です。この絵本では、「りんごの中身は、本当は何か別のものが入っているかもしれない?」と想像し、色々な中身を絵で表したもので、興味をそそられる大変面白い本です。講師の先生は、この絵本をもとに「自分たちでオリジナルの『りんごかもしれない』を考えてみよう」という授業を考えました。そうして出来上がった生徒作品を紹介していただきましたが、どれも素晴らしい作品ばかりでした。ここでも紹介したいのですが、生徒作品ということで残念ですが、紹介はできません。機会があれば、絵本は見えていただきたいと思います。

さて、この講話の中で出てきた言葉が「**考える頭があれば、世の中は果てしなく面白い!**」です。これは絵本の帯に書かれていた言葉だそうです。講師の先生は「これだ!」と、この言葉を見て思ったそうです。というのも、生徒作品をもっと自由に想像性豊かなものにしたと日々悩んでいたところに、この言葉と出会い、この授業を思いついたそうです。改めてこの言葉を見てみると、奥深さを感じる言葉であり、探究心や好奇心をそそられる言葉です。「自分も何かしてみよう!」と思いたくなる言葉です。

世の中には、もっと調べたり考えてみたりしたら面白いものやことがたくさんあります。自分なりのテーマをもって何かを探究するのは素敵なことだと思いました。

昨日は、福岡県学力調査について述べました。テストや入試のために必要な学力がありますが、楽しく生きるため、自分をより豊かにするための学力（考える力）を養うのも大切だと気づかされた研修会でした。

これから私も「考える頭」を使っていきたいと思っています。



ヨシタケシンスケ著
ブロンズ新社刊